

## はじめに

石鎚の連峰を仰ぎ、瀬戸内の風に包まれた学び舎において、日々、本県教育の振興と子どもたちの成長に尽力されている皆様に、深く敬意を表します。この度「教育研究紀要（第92集）」を刊行する運びとなりました。本紀要は、本県が直面する教育課題に対し、現場の最前線に立つ教師の鋭い実践知と、それを客観的・専門的視点から構造化する指導主事の英知が結集した、本県教育研究の到達点を示すものであります。

現代社会は、高度情報化の進展や生成AIの急速な普及など、予測困難な変革の渦中にあります。このような正解のない時代にあって、教育に課せられた使命は重く、子どもたちが自ら問いを立て、多様な他者と協働しながら最適解を導き出す力を育むことが、切実に求められています。いかに教育を取り巻く環境が変化しようとも、一人一人の可能性を最大限に伸ばすという不易の理念は、いささかも揺らぐものではありません。私たちは、時代の要請に応える流行の手法を柔軟に取り入れつつも、その根底にある教育の普遍的使命を常に問い直し、本県教育の質的向上を図らなければなりません。

本紀要に収められた研究は、まさにこの不易と流行の交差点において、日々の教育活動の中に端を発した「問い」を、理論と実践の両面から緻密に検証した軌跡であります。特に注目すべきは、現場の教師が抱く「より良い授業を創りたい」という情熱と、指導主事が担う「客観的な分析と普遍的な知見への昇華」という役割が見事に融合している点です。多忙を極める現場において、自らの実践を相対化し、理論的な裏付けをもって再構築する営みは容易なことではありません。しかし、この両者が真摯に対話を重ねるプロセスこそが教育研究の神髄であり、本県の教育力を支える骨太な基盤となるものです。

「教師の最大の教育力は教師自身の学ぶ姿にある」と言われます。研究に携わった皆様が、果敢に未知の課題へ挑まれた姿勢は、同僚や子どもたちにとって大きな教えとなったはずです。本紀要が、読者である教職員各位の教育実践を照らす灯火となり、各校における組織的な研究深化の契機となることを期待して止みません。

結びに、研究を進めるに当たり多大な御協力を賜りました皆様に深甚なる感謝の意を表します。総合教育センターは、これからも皆様の信頼すべきパートナーとして、本県教育の更なる発展に寄与していく所存です。

令和8年3月

愛媛県総合教育センター所長 渡邊 弘安